



**2019年度
第1四半期 決算補足資料
2019年8月1日**

株式会社UACJ

1. 2019年度 第1四半期業績

2. 2019年度 通期業績見通し

3. 事業構造改革

1. 2019年度 第1四半期業績

第1四半期 経常利益 △1億円（前年同期比 69億円減）

■ 数量：前年同期比増

- ・国内、UATH^{*1}（タイ）、TAA^{*2}（米国）の缶材が増加
- ・自動車向けが増加

■ 経常利益：前年同期比 69億円（102.0%）減

◎ 増益要因

- ・CUA^{*3}合併解消による持分法損益の改善
- ・UATH業績改善

△ 減益要因

- ・棚卸評価関係による減益
- ・経営環境悪化による販売減（中国経済の減速/米中貿易摩擦等）
- ・エネルギーコストの増加

2019年度 第1四半期業績



(単位：億円)

	2018年度 1Q (A)	2019年度 1Q (B)	増 減 (B) - (A)
連 結 売 上 高	1,716	1,598	△118
連 結 営 業 利 益	86	13	△73
棚 卸 影 響 前 連 結 経 常 利 益	27	16	△11
棚 卸 影 響 額	41	△ 17	△58
連 結 経 常 利 益	68	△ 1	△69
連 結 当 期 純 利 益	23	△ 16	△39
Adjusted EBITDA	121	107	△14

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

セグメント別 売上高・営業利益

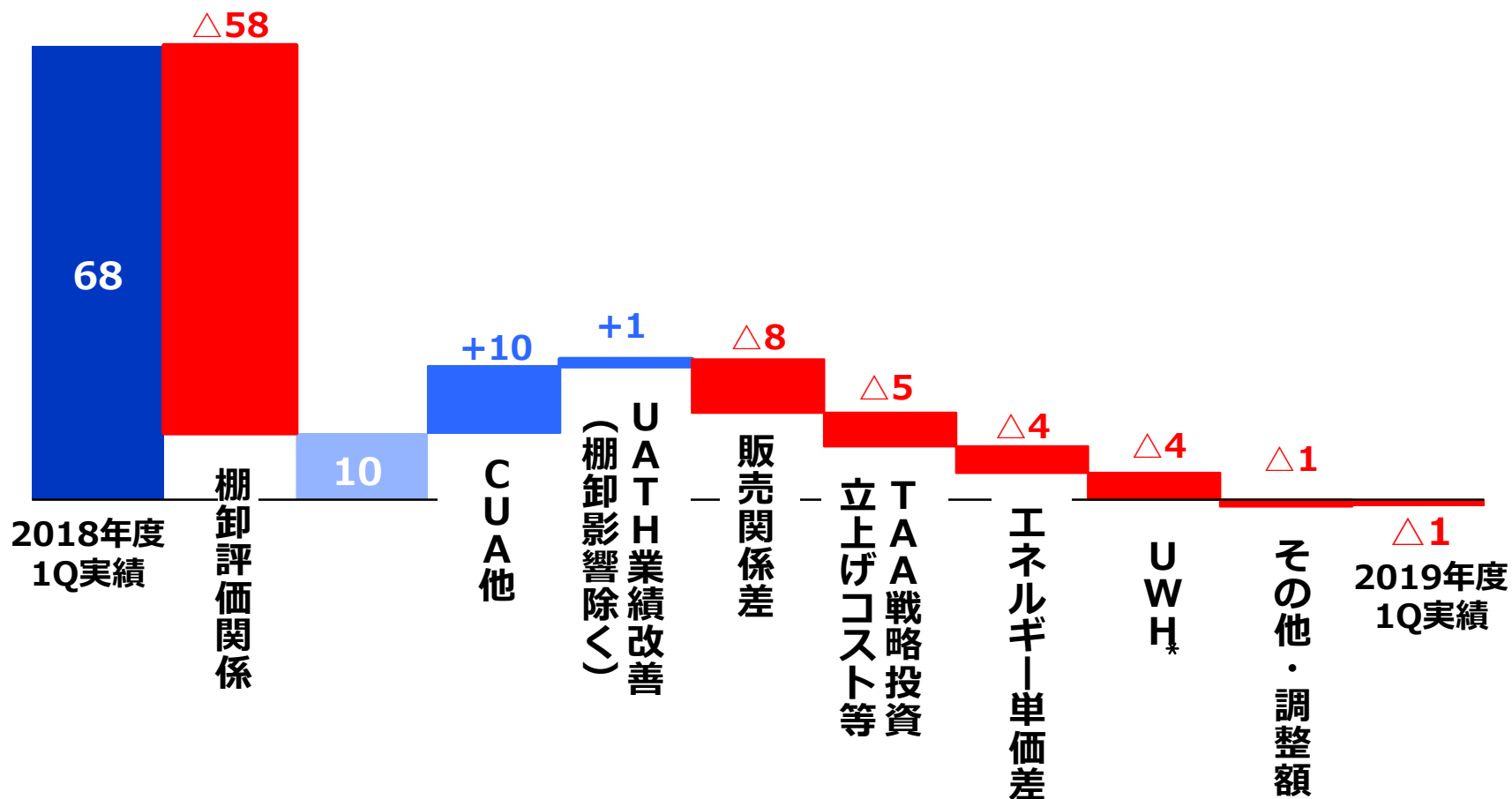
(単位：億円)

	2018年度 1Q (A)		2019年度 1Q (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	1,386	89	1,289	24	△98	△65
伸銅品	127	7	124	3	△4	△4
加工品・関連事業	486	7	489	2	3	△5
(調整額)	△284	△17	△303	△16	△19	1
合 計	1,716	86	1,598	13	△118	△73

連結経常損益分析 (2018年度1Q → 2019年度1Q)

68億円 (2018年度 1Q) → △1億円 (2019年度 1Q)

(単位：億円)



アルミ板 品種別売上数量



(単位:千トン)

品 種	2018年度 1Q (A)	2019年度 1Q (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	165	175	10
箔 地	13	11	△2
I T 材	4	4	0
自 動 車 材	35	39	4
厚 板	15	8	△6
その他一般材	48	54	6
合 計	280	292	12
	(国内市場向け 138 海外市場向け 142)	(国内市場向け 133 海外市場向け 158)	(△5 17)

2. 2019年度 通期業績見通し

2019年度 通期業績見通し



(単位：億円)

	2018年度 (A)	2019年度 (5月時見通し) (B)	2019年度 (今回見通し) (C)	増減 (C) - (B)	増減 (C) - (A)
連結売上高	6,613	7,100	6,700	△400	87
連結営業利益	149	175	100	△75	△49
棚卸影響前 連結経常利益	30	115	79	△36	49
棚卸影響額	32	△5	△39	△34	△71
連結経常利益	62	110	40	△70	△22
連結当期純利益	11	35	未定	-	-
Adjusted EBITDA	426	520	479	△41	53

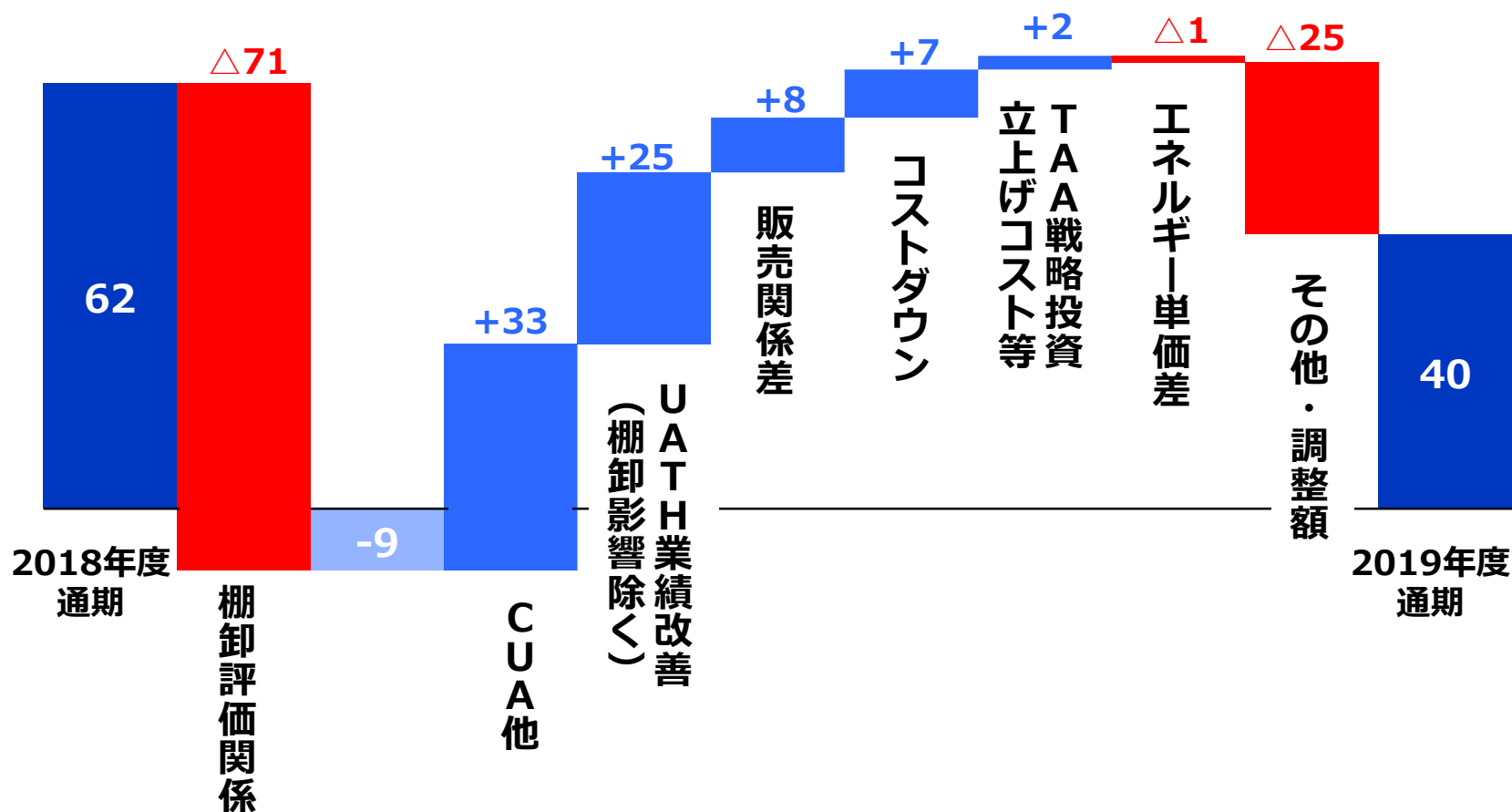
年間配当 未定

連結経常損益分析

(2018年度 → 2019年度 見通し)

62億円 (2018年度) → 40億円 (2019年度)

(単位：億円)

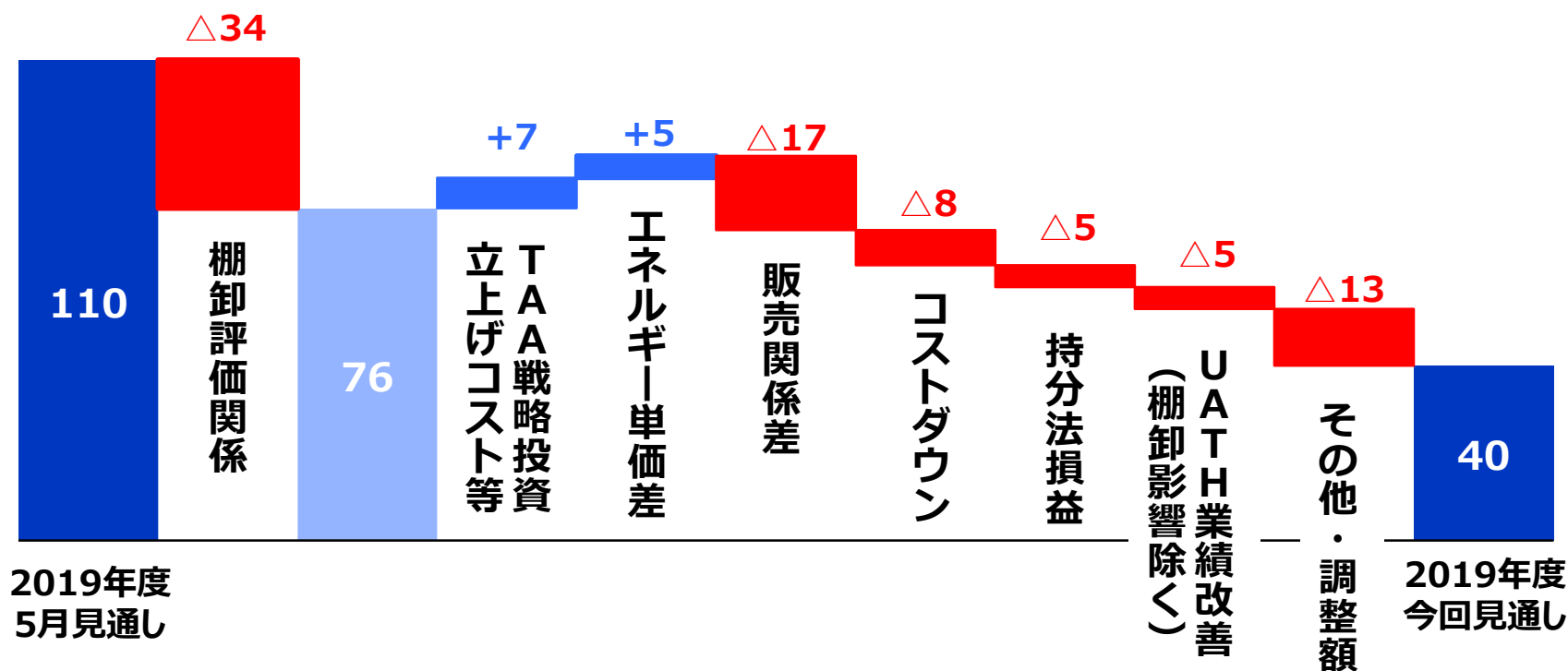


連結経常損益分析

(2019年度5月時見通し → 2019年度 今回見通し)

110億円 (2019年度5月時見通し) → 40億円 (2019年度今回見通し)

(単位：億円)



3. 事業構造改革

UACJの 事業環境

- 米中貿易摩擦、中国経済減速影響等によりIT材、液晶・半導体製造装置用厚板等の販売が減少（一過性要因）
- 国内を中心に市場成長が鈍化（構造的要因）
- タイ、北米の需要環境はほぼ想定通り順調
既に、日・米・タイ3極で強力な供給体制確立

考え方・ 認識の変化

- 事業環境の変化に合わせて、
- **収益構造の抜本的、且つ早急な改革・強化が必要**
 - 改革実行プランの策定に着手

今後の方針

- 2019年9月に「**事業構造改革プラン**」を発表し、直ちに**構造改革フェーズに移行**する
- 構造改革を通じて、**収益性ならびに財務体質を抜本的に改善し、企業価値の向上**を図る

事業構造改革の重点方針

- 1 | 環境変化に強い収益・コスト構造改革
(拠点再編も視野)
- 2 | 財務体質の早期改善
- 3 | 選択と集中の加速

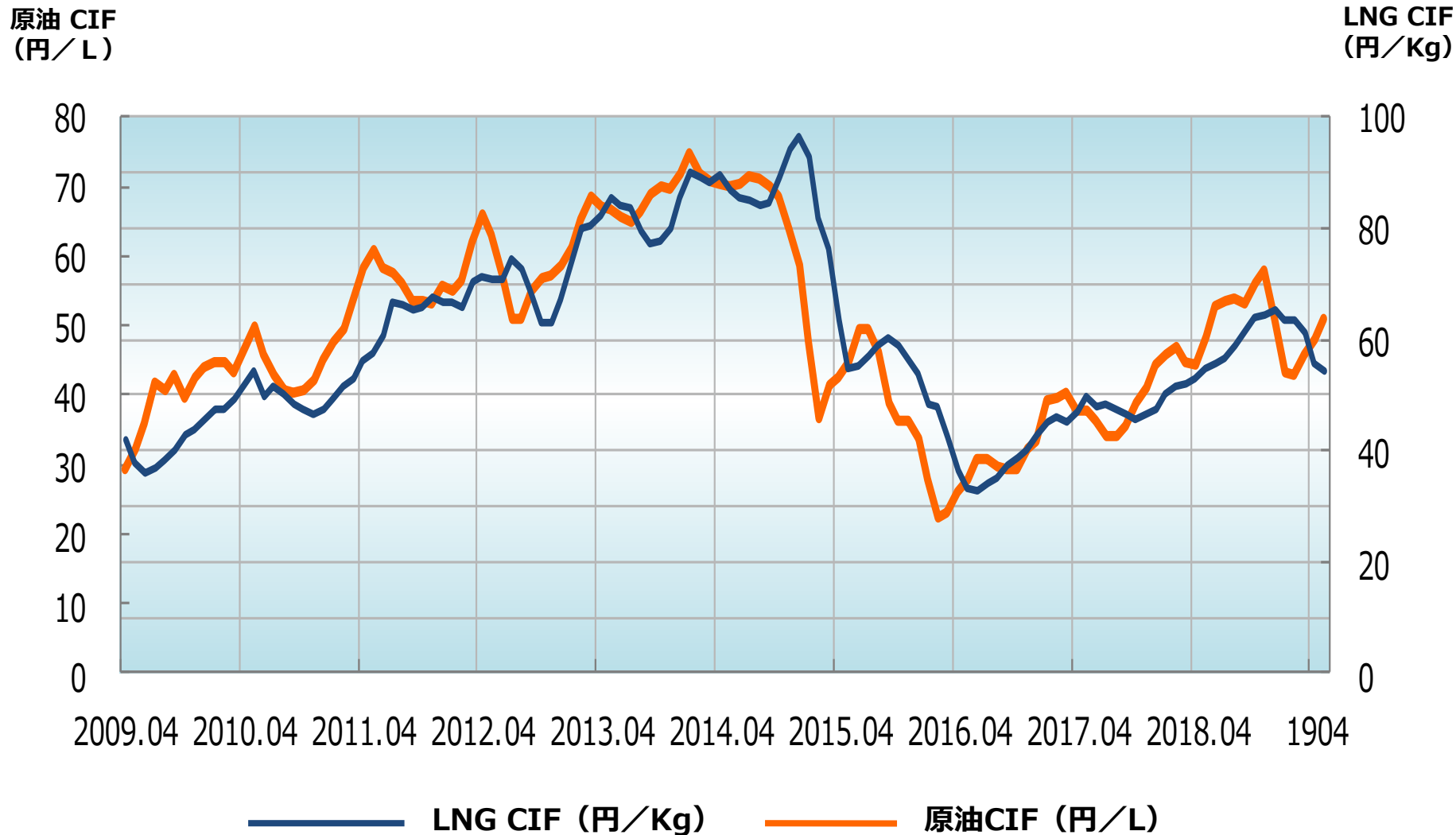
ご参考データ

2019年度 セグメント別 売上高・営業利益 見通し

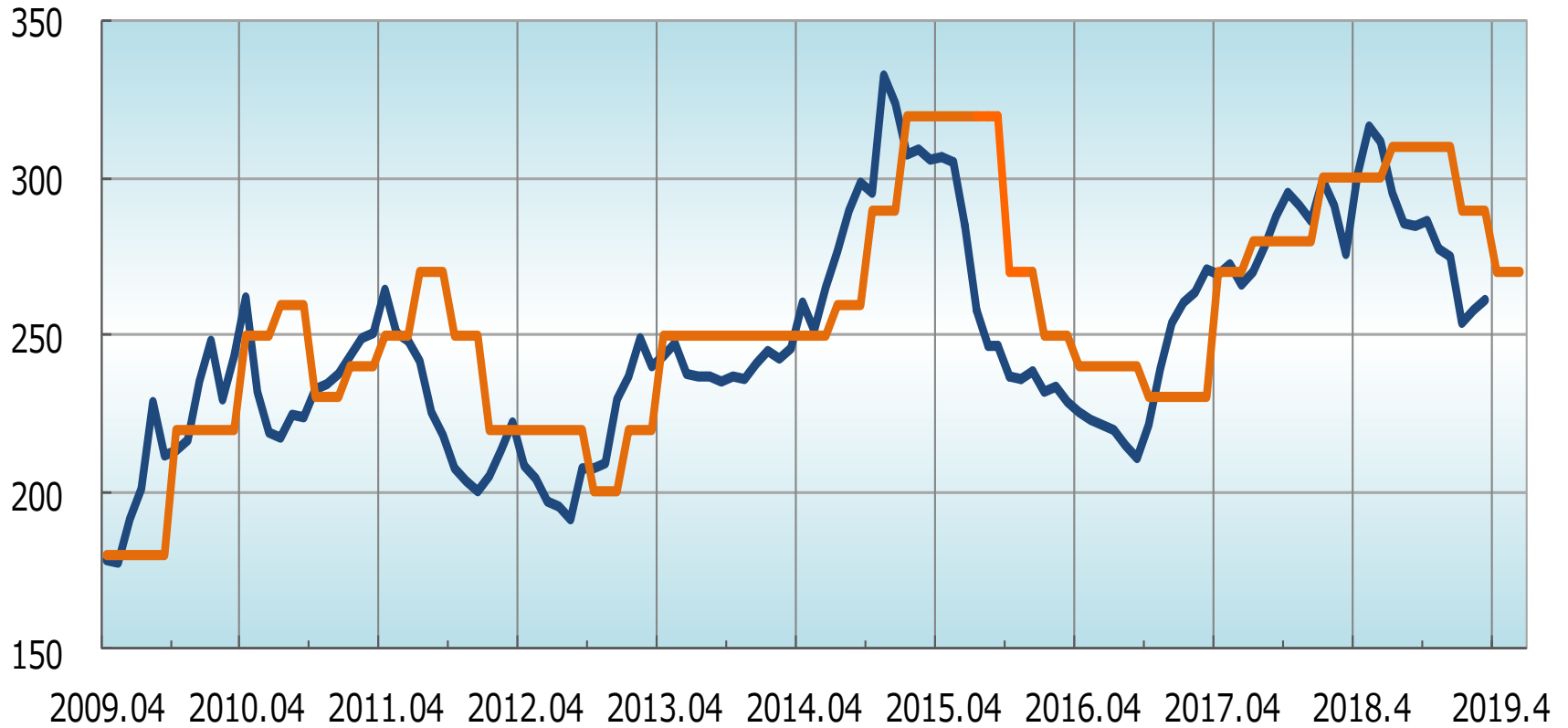


(単位：億円)

	2018年度 (A)		2019年度 (5月時見通し) (B)		2019年度 (今回見通し) (C)		増減 (C) - (B)		増減 (C) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ 圧延品	5,307	170	5,670	201	5,412	133	△258	△68	105	△37
伸銅品	475	17	501	22	242	8	△259	△14	△233	△9
加工品・ 関連事業	1,971	31	2,082	36	2,087	30	5	△6	116	△1
(調整額)	△1,140	△70	△1,153	△85	△1,041	△71	111	13	99	△1
合計	6,613	149	7,100	175	6,700	100	△400	△75	87	△49



(円/Kg)



— アルミ日経市況

— アルミ基準地金

	2018年度 (実績)	2019年度 (見通し)	2019年度 (最新見通し)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	284	269	257	10円/kg上昇した場合 →+20~+30億円/年
LME (米\$)	2,035	1,900	1,800	\$100/t上昇した場合 →+22~+35億円/年
為替 (円/米\$)	111	111	108	ほぼ影響なし ・燃料単価、添加金属：円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差：円安が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.4	3.5	3.5	
原油 (ドバイ: 米\$)	72	68	68	10ドル上昇した場合 →△10~△15億円/年

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびに I R 関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

コーポレートコミュニケーション部 TEL : 03-6202-2654 FAX : 03-6202-2021

URL : <http://www.uacj.co.jp>

(東証1部 コード番号 : 5741)

口頭説明用
バックアップ資料
(対外配布無し)

手元資料（口頭説明用：配布なし）

～トピックス：タイ・北米の状況

第3期工事も順調、2019年度営業利益黒字（体質）を確立する

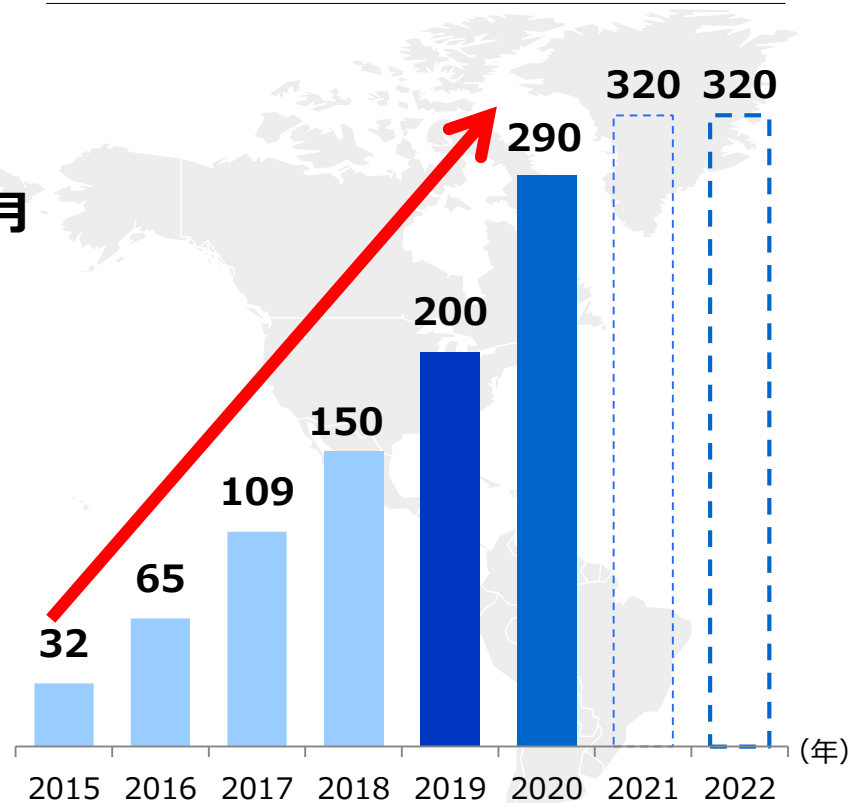
2019年度1Q総括

- ・東南アジアを中心に缶材需要は引き続き堅調
- ・第3期工事は順調、月産数量も増加
- ・販売量 第1四半期（1月-3月）約13,000t/月
- ・損益 概ね予定通り進捗

今後の見通し

- ・2019年度は年間20万tの販売計画に変更なし
- ・販売量 第2四半期 13,000t/月
下期平均約20,000t/月を予定
- ・2019年4Q（10-12月）に営業損益、
2020年度には経常損益での黒字化を目指す

UATH 年間販売量（千t）



北米缶材需要は引き続きタイト、下期増産分の契約も締結済

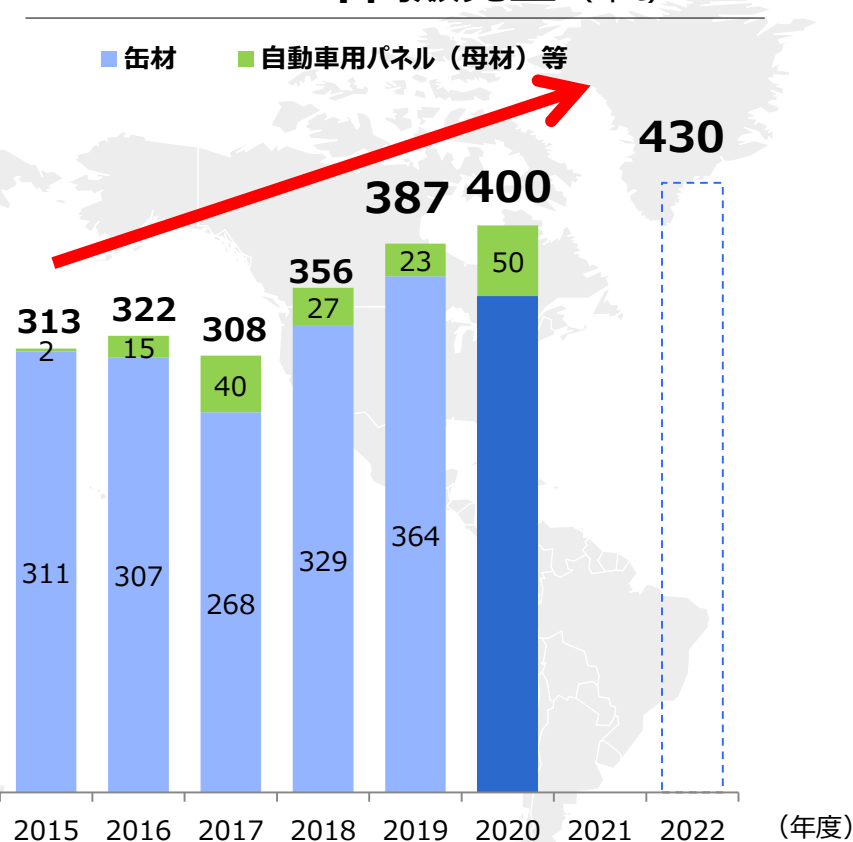
2019年度1Q総括

- ・北米缶材需給はタイトな状況継続
- ・環境意識の高まり→アルミ缶ニーズ拡大
- ・缶材のフル生産・フル販売継続
- ・大口案件獲得（販売単価アップ）
- ・日・タイからの本格出荷開始

今後の見通し

- ・缶材需給はタイトな状況が引き続き、継続
- ・下期増産分の販売契約は既に締結
- ・2015年から実施しているコストダウン投資は回収フェーズへ
- ・販売数量：2020年度 40万t体制へ

TAA 年間販売量 (千t)



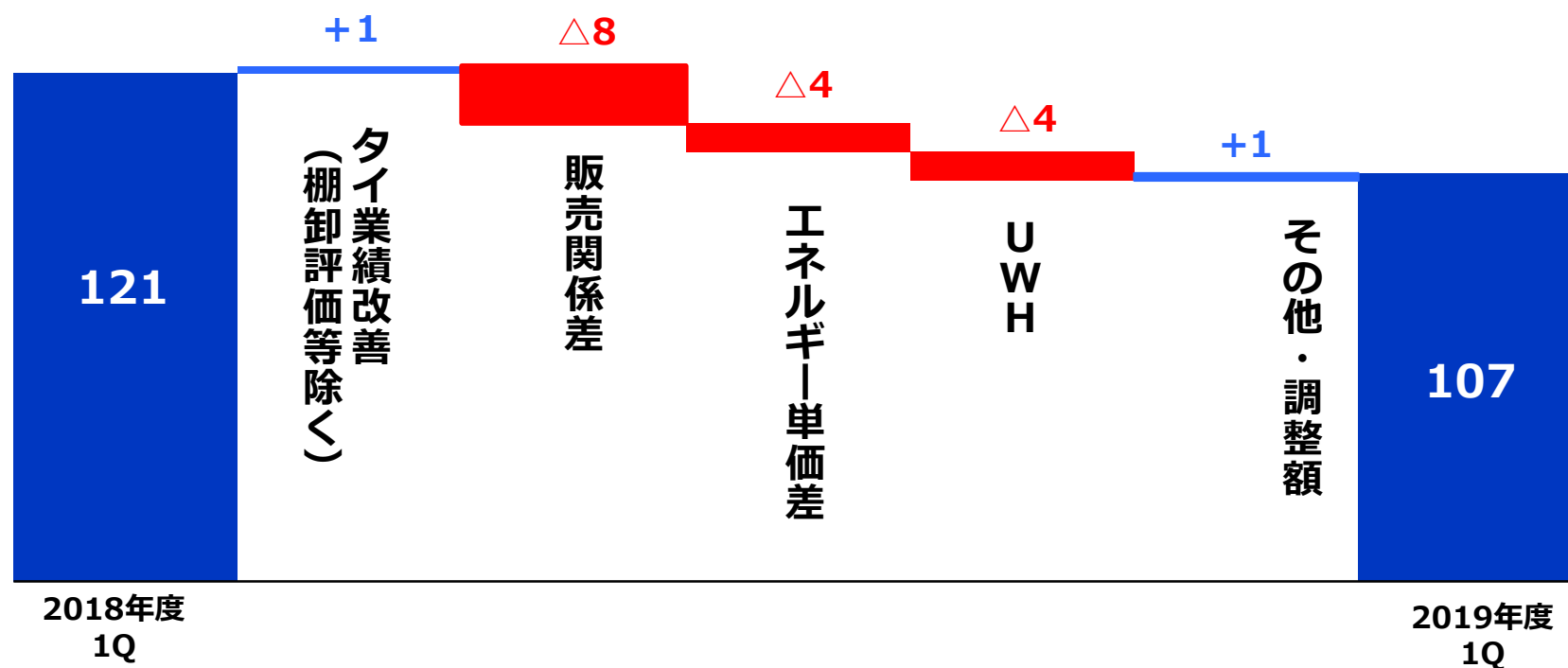
参考資料・頻出Q（説明、配布なし）

Adjusted EBITDA分析 (2018年度1Q → 2019年度1Q)

バックアップ資料
(対外配布無し)

121億円 (2018年度 1Q) → 107億円 (2019年度 1Q)

(単位：億円)



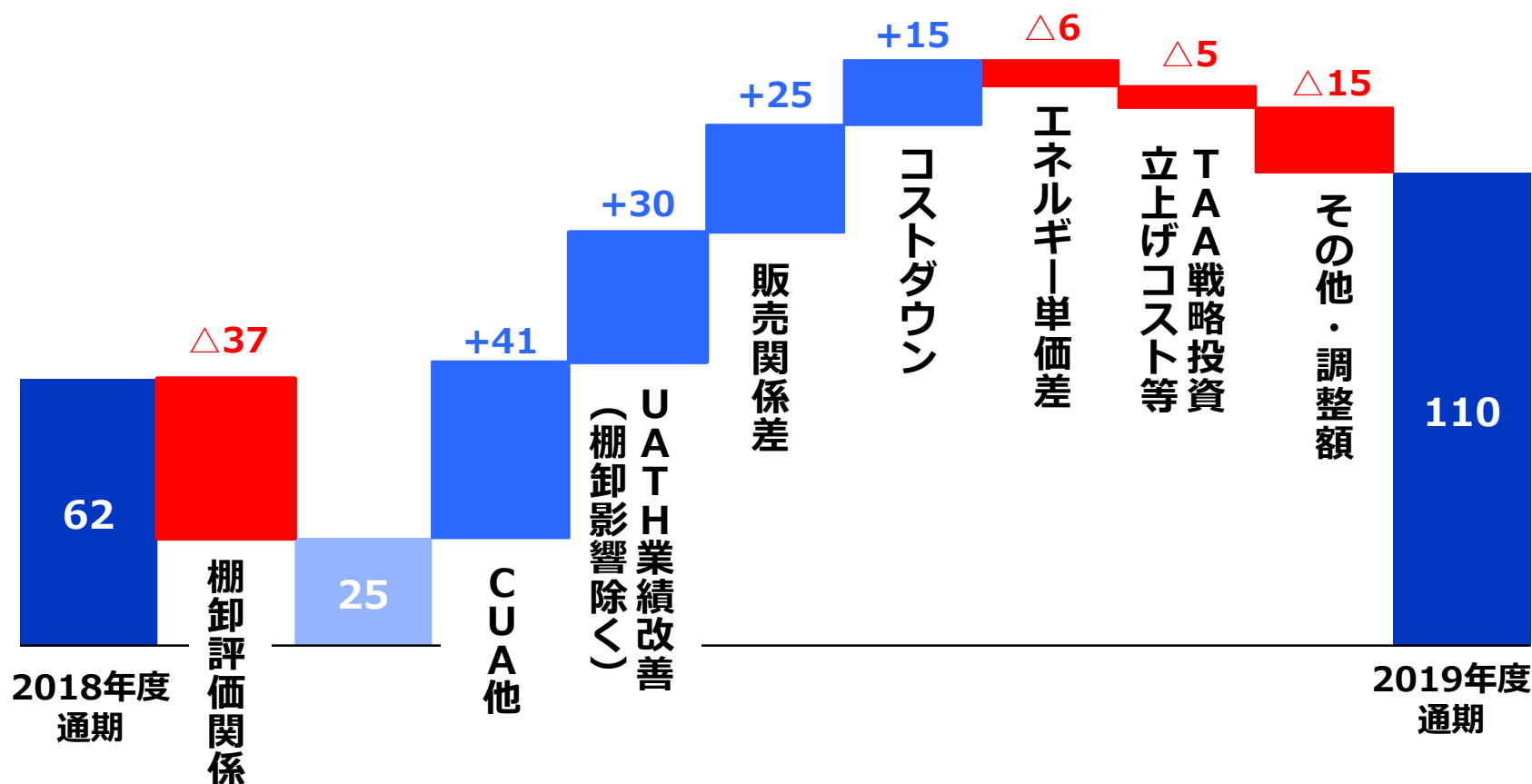
連結経常損益分析

(2018年度 → 2019年度 見通し)

5月本決算
発表内容

62億円 (2018年度) → 110億円 (2019年度)

(単位：億円)



項目	質問	回答トーン												
貿易摩擦	米中貿易摩擦の影響は？ 中国経済減速の影響は？	半導体製造装置向け厚板/IT材の需要が急激に減速するなど大きな影響を受けている。一方で、中国材が日本を含むアジア市場に流入しているが、当社への影響は今のところ非常に限定的。												
業績	UATH, TAA, UWH, CUAの19年度1Qの業績を、開示可能な範囲で教えてほしい。(できる限り)	<p>経常損益について回答する。(単位：億円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2018年度1Q</th> <th>2019年度1Q</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>UATH</td> <td>△17</td> <td>△15</td> </tr> <tr> <td>TAA</td> <td>28</td> <td>△4</td> </tr> <tr> <td>UWH</td> <td>△2</td> <td>△6 (のれん控除後)</td> </tr> </tbody> </table>		2018年度1Q	2019年度1Q	UATH	△17	△15	TAA	28	△4	UWH	△2	△6 (のれん控除後)
	2018年度1Q	2019年度1Q												
UATH	△17	△15												
TAA	28	△4												
UWH	△2	△6 (のれん控除後)												
業績	国内缶材向けロールマージンの値上げを実施するとの報道があったが、値上げ効果は？	<p>約2.5億円/月*6=15億円。対象 缶材がメイン ただし、数量減少しており、効果としては14億円程度。 (FY19での効果は数億、FY20に10億円+@) 昨年の値上げ効果：TTL 20億円 (18下10億、19上10億)</p>												
業績	液晶・半導体装置向け厚板の今後の見通しは？	液晶・半導体製造装置関連は2019年度下期からの回復を見込んでいたが、米中貿易摩擦による景況感の不透明さもあるため、現時点で確実な回復時期は言えない。												
タイ	足元のUATHの業績トレンドが続くようだと19年度中の営業黒字目標達成は難しいのでは？	販売数量は着実に伸びており、フィン材など高マージンな部材も増えてくれば収益は改善する。19年での営業黒字体質を目指す。												
タイ	UATHの減損可能性は？	現時点ではない。 UATHは立上げ期にあるため赤字が続いているものの、将来計画まで含めて評価してもらっているので、現時点では減損の認識はない。												